

オンライン授業評価のコメント、授業改善目標

科目名	コメント	授業改善目標
科目 A	<p>概ね肯定的な評価だったものの、飽きのこないような工夫に対して「どちらともいえない」との評価がみられた。</p> <p>自由記述の意見はなかったものの、やや単調な講義になってしまったかも知れない。</p> <p>この科目は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの対象科目となっていて、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついているということ、「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るものであること、様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用がみられ、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること、活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI 社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解を深めること、を学ぶ重要な科目なので、是非積極的に学んでほしい。</p>	<p>これまで以上に多くの事例を示しながら、飽きのこないような工夫をしていきたい。</p>

科目 B	<p>授業中の説明、飽きのこないような工夫、満足度について、肯定的な評価と否定的な評価に分かれることとなった。受講者のコメントをもとにした意見交換に否定的な意見があり、教員の意図との乖離もあったものと思われる。</p> <p>この科目は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの対象科目となっていて、様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものを学ぶ重要な科目なので、是非積極的に学んでほしい。</p>	<p>授業の目的、目標をしっかりと伝えつつ、受講者全員の反応をこれまで以上に注視し、一人ひとりが満足する講義となるよう、改善していきたい。</p>
科目 C		
科目 D		
科目 E	<p>私の周知不足もあり、回答者は 0 名であったが、この科目は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの対象科目となっていて、「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るものであることを学ぶ重要な科目なので、是非積極的に学んでほしい。</p>	<p>受講者一人ひとりの立場に立って授業を反省し、全員が肯定的な意見となるよう、一つひとつ改善を進めていきたい。</p>
科目 F	<p>本年度は履修者が非常に少なかったのですが、十分な理解ができず、満足できなかった学生もいたようです。PC 操作と内容理解の両面を目指していたのですが、不十分だったようです。反省します。</p>	<p>PC を操作するのみではなく、そこに出てきた数値が何を意味するのか、なぜそのような手法を使うことができるのかななどを、理解してもらうことを目指しましたが、うまくいきませんでした。2021 年度は「説明する力」を伸ばすような授業設計をしていきたいと思います。</p>

<p>科 目 G_1</p>	<p>教員と学生が直接対面できないこと以外は、例年の対面授業の形式を再現できたと思います（授業の進め方は例年通り、PowerPoint スライドによる教員からの説明を聞きながら、途中、学生は課題を行い、最後にその日の課題ファイルを提出するという形でした）。授業評価を見ますと、概ね高評価をいただけたと思います。自由記述回答では「わかりやすく説明されてよくわかった」とあり、この言葉がいちばん嬉しいです。LMS を通じた情報システムの利活用法、e-mail ソフト（Outlook）の使用法、Word、PowerPoint の使用法の基本を学んでいただけたかと思います。これらの技術・知識は、大学4年間、さらに卒業後社会に出たとき、例えば働く上で必ず必要なものです。この科目で学んだことをベースにして、大学生の間にさらに情報リテラシーを向上させて行ってほしいです。</p>	<p>対面授業であれば、もっとフォローすることができたのに、という学生が数名、いました。心残りです。後期の「情報リテラシーⅡ」も同じ受講生メンバーですので、直接フォローしたいと思います。</p>
--------------------	---	---

<p>科 目 G_2</p>	<p>最初に言い訳になってしまい心苦しいのですが、今期の授業評価アンケートの回収率が非常に低くなってしまったことを受講生の皆さんに申し訳なく思います。後期に開講したいずれの科目も校務の都合により最終回をオンデマンド開講としたことでアンケートに回答してもらうための PR が十分に出来ませんでした。そんな中でも、回答してくれた皆さんの評価は非常にポジティブな結果でした。引き続き多くの学生にわかりやすく楽しくよく身につく授業を展開していきたいと考えます。しっかりと周知できていない中でもアンケートに回答してくれた皆さんありがとうございました。科目 G_2 はこれからの社会において必携スキルとなっていくはずの数理・データサイエンス・AI プログラムの対象科目となっています。必修なので当然なのですがぜひ多くの学生に受講して欲しいです。</p>	<p>評価に対するコメントに書いたとおり、回収率が非常に低かったことを深く反省しています。次年度はしっかりと回収率が高まるように授業時間内に今まで以上に授業評価アンケートの意味・価値を伝え、回答のための時間を確保するよう図っていきたい。</p>
<p>科 目 G_3</p>	<p>ベトナムの学生 1 名、ネパールの学生 1 名（とベトナム人留学生の TA1 名）の少人数授業でした。授業内容は、上記の日本人クラス「情報リテラシー I (a)」と全く同じものを実施しました。私のアナウンス不足で、授業評価アンケートは未回答となっております。学生の期末テストの出来は非常に良かったので、教えたことはきちんと理解してもらえたのだと判断します。</p>	<p>まずは授業評価アンケートのことをしっかりとアナウンスしたいと思います。</p>
<p>科 目 G_4</p>		

<p>科 目 G_5</p>	<p>授業評価の案内を授業中にしなかったため、人数が少ないですが、おおむね高評価をいただき、ありがとうございます。</p>	<p>オンライン授業で、リアルタイムで講義を見ながら編集をしたり、教員の日本語の説明と SI の訳を聞きながら講義に参加するのはなかなか難しかったと思います。次年度は説明についてはオンデマンド教材で、授業時間は各自で教員や SI に質問しながら課題をおこなうなど、負荷がかからない方法で受講ができるように努めたいと思います。</p>
<p>科 目 G_6</p>	<p>登録者数 13 名、うち日常的に授業に出席し単位を取得した学生は 10 名でした。おそらくそのうち 3 名の方から授業評価をいただいたのだと思います。わかりやすさ、満足度ともに「5」をいただきました。自由記述回答では「簡単でわかりやすく安心してできました。ありがとうございます」とありました。授業内容は通常の 1 年生クラス（情報リテラシー I (a)）と同じなので、特に簡単にしたということはありません。この科目を履修することによって、情報システムに対する苦手意識を少しでもやわらげることができたのなら本望です。</p>	<p>引き続き、情報システムに対する苦手意識を和らげられるような授業をしていきたいと思っています。</p>
<p>科 目 G_7</p>		

<p>科 目 G_8</p>	<p>オンライン授業評価に協力してくれた学生に感謝します。</p> <p>前年度の結果を踏まえ改善に取り組んだり、新しいことにチャレンジしたりしてみました。</p> <p>また、本年度前期はオンラインでの授業となり例年とはまったく異なる方法での授業に四苦八苦しましたが、よりよい授業になるよう心掛けましたが、良くなった所もあれば悪くなった所もあるかと思えます。評価結果を基に次年度以降の更なる改善に取り組みたいと考えています。</p> <p>この科目はこれから必須となる数理・データサイエンス・AI教育プログラムの対象科目となっています。</p>	<p>オンライン授業だったためPCの活用方法を色々と考えて実行してみました。が、授業中やあとで見直したりした際に気になる点に気づくこと多く、そういった所を少しでも良くなるよう改善していきたい。</p> <p>また、オンラインで資料はいつでも見ることができるようにしたことと、授業をそのまま録画し、授業後に見られるようにしましたが、見やすさや調べやすさを考慮して動画の編集や授業資料等を閲覧するためのシステムを構築していきたい。</p>
<p>科 目 G_9</p>		
<p>科 目 G_10</p>	<p>科目 G_10、I_10 においては授業満足度についてはおおむね高い評価だったものの、授業を飽きさせない工夫という点では課題があった。留学生の授業ということもあり、フルオンラインで授業を実施した為、学生の質問への対応が不十分だったのではないかと思われる。科目 G_10、I_10 は本学の情報科目及びデータサイエンスを学ぶにあたっての基盤的科目である。学生らには授業時間中に限らず、授業時間外でも予習・復習も含めて積極的に取り組んでくれることを期待している。全体として授業外学習については十分といえないものもあったように思う。</p>	<p>本年度の特徴として、フルオンラインでの授業やハイブリッド型授業の実施があった。オンラインで受講している学生にも配慮はしたものの、十分な授業外学習につなげることができなかった。TeamsやCASKなどのLMSを活用しながら学生の興味を引き出すような資料を提供していき、授業外学習につなげていきたい。</p>
<p>科 目 G_11</p>		
<p>科 目</p>	<p>概ね肯定的な評価が多かったものの、</p>	<p>オンライン授業の際も一人ひとりの様</p>

G_12	<p>授業中の説明、満足度に否定的な評価が若干みられた。オンライン授業のため受講者一人ひとりの様子が把握しにくかったこともあるが、改善の余地があると考えられる。</p> <p>この科目は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの対象科目となっていて、活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI 社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解を深めることを学ぶ重要な科目なので、是非積極的に学んでほしい。</p>	<p>子を把握し、効率よく的確に指導を行える方法について工夫していきたい。</p>
科目 H		

<p>科 目 I_1</p>	<p>オンライン授業評価に参加してくれた学生にお礼申し上げます。 回答率が42%ですので、100%に近づけるよう、次に述べる授業改善を行っていきます。 よい評価と悪い評価に大別すると、おおむねよい評価を得ることができました。次年度以降もこの評価を受けられるよう、授業運営を継続していきたいと考えています。 次に「予習復習」の時間に関しては、全体よりも低い（時間が短い）傾向があります。 これまでは、予習としてテキストを通読してくること、復習として授業内容を振り返り各自で理解を深めること、を指示していましたが、より具体的にするためにワークシートを課すことを試験的に行ってみたいと思います。 今年度は科目 I_1 を担当しました。 経済学部对学生に対して授業を行うことがほぼ初めてでした。 授業の中身としては、現代社会の基礎教養としてのPC利用から、データの活用方法を意図したものでしたが、初めての担当で学生に負担をかけた部分もありました。 今後担当する機会があれば改善いたします。 学生の皆さんも、積極的に授業に参画してください。</p>	<p>オンライン授業評価の回答率 100%を目指して①オンライン授業評価を行う授業回を設ける②学生にアナウンスメントを行う予習・復習時間の確保①予習・復習を行うワークシートの作成(試験的に)</p>
--------------------	---	---



<p>科目 I_2</p>	<p>前期「情報リテラシー I」のオンライン授業から、やっと対面で皆さんに授業ができました。後期は Excel を使いました。昨年度よりも量が増え、内容も高度なものが加わりました。授業中に教えるグラフの種類、Excel 関数の種類も増えました。特に実データを使用してグラフを描いたり、簡単な回帰分析を行ったりしています。したがって、社会に存在する様々なデータを活用する視点、技術を獲得できたのではないかと思います。授業評価は、概ね高評価をいただけたと思いますが、1、2 名、満足できなかった受講生もいたようです。自由記述から「テスト時間が短すぎて焦っておわった。」→おそらく皆さんにとってはほぼほぼ初めての大学での期末試験（60 分）だったので、時間の見積もりがうまくいかなかったのでしょうか。もっと言うと、事前にどのような内容が出るかの話もしましたので、勉強不足かなと思います。「プリントが使われていて、分かりやすく授業内容を進めることができた。」→授業のスピードに合うか合わないかは人それぞれなので、もしスピードに遅れてきた場合にはプリントを活用してください。「パソコンが苦手だったけど、SI の先輩学生がきてくれてわかるまで教えてくれたからやることができた。」→本人に伝えておきます！ 低評価の原因が自由記述からは読み取れなかったので、改善してほしい点がある場合には、ぜひ、コメントください。</p>	<p>前期に心配をしていた一部の学生も無事に最後まで受講でき、また他の受講生にも、授業が理解されていない、などの問題は見受けられませんでした。</p>
---------------	---	---

<p>科目 I_3</p>	<p>前期に引き続き、ベトナム人留学生 1 名、ネパール人留学生 1 名（とベトナム人留学生の SI）で構成された授業でした。授業評価アンケートにも回答していただきました。4 以上の高評価をいただきました。自由記述欄から、「細かいことまで優しく教えてくださって」「留学生たちが理解できるように、いつも簡単に説明してくださったり、学生の姿をよく見てくださったり、」→人数も少なかったので、目が行き届きました。こちらのキャバがある限りはなるべくフォローはしたいといつも考えています。「この授業を受けてパソコンのことをよく分かりました。小松先生が授業で分からないことがある時も実際にやって教えましたからいいと考えました。」→前期、オンラインではなかなか伝わりづらいところが多かったので、対面授業になってこちらも教えやすかったです。いずれにしましても、両学生の学習に対する基本姿勢が整っていたところに助けられました。</p>	<p>受講生が少なかったこと、留学生本人たちの理解力が高かったこともあり、日本人クラスと同等の授業をすることができました。</p>
<p>科目 I_5</p>		
<p>科目 I_6</p>	<p>授業評価の案内を授業中にしなかったため、人数が少ないですが、おおむね高評価をいただき、ありがとうございます。</p>	<p>オンライン授業でインターネット環境があまりよくない学生もいましたが、真面目に取り組む学生が多く、授業範囲としては例年通りに進むことができました。ただ、理解度の確認や受講生同士でわからないところを教えあったりすることが難しかったので、次年度以降は、理解度の確認方法を検討したいと思います。</p>

<p>科 目 I_7</p>	<p>講義時間内に授業評価の時間をとらなかつたため回答率が低くなつてしまいましたが、高評価をいただき、ありがとうございます。</p>	<p>受講生の意識が高く、スキルを身につけることに積極的なクラスでした。後半では基礎的なことはできてしまう受講生が暇になつてしまつたので、応用課題を準備するなど、次年度は柔軟に対応していきたいと思ひます。</p>
<p>科 目 I_8</p>		
<p>科 目 I_9</p>		
<p>科 目 I_10</p>	<p>科目 G_10、I_10 においては授業満足度についてはおおむね高い評価だつたものの、授業を飽きさせない工夫という点では課題があつた。留学生の授業ということもあり、フルオンラインで授業を実施した為、学生の質問への対応が不十分だつたのではないかと思はれる。科目 G_10、I_10 は本学の情報科目及びデータサイエンスを学ぶにあつたの基盤的科目である。学生らには授業時間中に限らず、授業時間外でも予習・復習も含めて積極的に取り組んでくれることを期待している。全体として授業外学習については十分といえないものもあつたように思ふ。</p>	<p>本年度の特徴として、フルオンラインでの授業やハイブリッド型授業の実施があつた。オンラインで受講している学生にも配慮はしたものの、十分な授業外学習につなげることができなかつた。T e a m s や C A S K などの L M S を活用しながら学生の興味を引き出すような資料を提供していき、授業外学習につなげていきたい。</p>
<p>科 目 I_11</p>	<p>おおむね高評価をいただけたようでよかつたです。維持できるようにがんばります。数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの科目はこれからとっても重要になってきますので、是非今後履修をしていただければと思ひます。</p>	<p>今回はできなかつた講義内課題を用いたグループワーク導入を来年こそはやりたいと思ひます。</p>
<p>科 目 I_12</p>	<p>楽しい授業であつた、深く知ることができた、分かりやすい説明であつた、</p>	<p>設問によっては「どちらともいえない」、「あまりそうとは思はない」とい</p>

	<p>といった肯定的な意見が多かった点は良く、楽しく必要な知識、技術を身につけられた点は良かった。</p> <p>この科目は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの対象科目となっていて、実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AI の基本的な活用法に関するものを学ぶ重要な科目なので、是非積極的に学んでほしい。</p>	<p>う意見も散見されたため、全員が満足する内容となるよう、工夫し改善していきたい。</p>
<p>科 目 J_2</p>	<p>おおむね高い評価でしたが、「わかりやすさ」「満足度」などの項目でネガティブな評価の学生が若干いました。今年度は「統計検定3級」の試験範囲が広がったことを考え、進度を早くしました。そのため、消化不良になってしまった学生もいたと思われます。毎回の授業は、動画視聴→クイズ→講義→問題演習という流れでおこないましたが、問6「テキスト・プリント・視聴覚教材等は、授業内容の理解に効果的に使用されていたと思いますか。」の高評価にあるように、効果的であったと考えられます。また、昨年より授業外学習の時間も増加しています。自由記述欄は、「わかりやすい」などのポジティブな評価が多かったのですが、「毎回授業の終わりが早口でプリントに記入するのと並行しようとする」と説明が十分にきくことができないのもう少し授業のペース配分を均等にしてほしいです。」という意見もあり、反省しています。一部ですが、信頼関係が築けなかった学生もいたようで、非常に残念で</p>	<p>2021 年度から『データサイエンス入門』が開講され、この授業で行っていた PC 実習の部分は大部分『データサイエンス入門』に移行します。そのため、この授業では理論の理解が中心となります。2021 年度はこの授業だけで統計検定3級の範囲をできるだけカバーできるようにします。進度は早くなりますが、受講するのが楽しみになるような仕掛けをしていきたいと思えます。データサイエンスを学ぶ上で、『データサイエンス入門』とこの科目は両輪のようになりますので、しっかり学んでほしいと思えます。</p>

	す。	
科目 K	<p>昨年度の非常に高評価をいただいたこともあり、前年比では若干下がりますが、全般的には高評価をいただけたと思います。授業外学習の時間は増えていることや、進度が例年より早かったことを考えると、皆さんにハードワークを課したと考えられます。自由記述にも「難しすぎた」などの意見がありました。このような人へのフォローアップは考えていきたいと思っています。</p>	<p>今年度授業の進度を上げましたが、それについてこれる学生が大部分でしたので、次年度もこの進度で実施します。「統計検定3級」の6月試験の前までに、試験範囲をカバーできるようにします。</p> <p>一方で、『統計学基礎』を履修していない学生も受講可能ですので、動画を活用して補える体制を構築していきます。</p>

科目 L	<p>本年度は履修者が少なかったうえに、これまでに私の他の授業を履修した学生がほとんどだったので、アットホームな雰囲気です。授業展開できました。そのせいもあり、例年より高評価でした。毎回の授業を、動画視聴→クイズ→講義→問題演習という流れにしたので、授業外学習もやりやすかったのではないかと思います。</p>	<p>これまでの受講生の傾向から、基本的な知識が定着していないことがわかり、クイズで基本的な知識の定着を目指しました。試験の成績を見ると若干良化したようですが、まだ不十分です。経済データをきちんと読み取るためには、基本的な知識は不可欠です。知識をしっかりと持ったうえで、現実の経済データがきちんと読み取れるようになることを目指していきます。</p>
科目 M	<p>教員としても、きっと受講生の皆さんにとっても初めてのオンライン授業の学期であったがいずれの科目においても授業もわかりやすさ、飽きの来ないような工夫、補助教材の効果的な利用、満足度において多くの学生が高い評価をしてきていた。自由記述についても多くのポジティブなコメントの中で具体的に良かったところなどを記入してもらえた。この結果は今後の授業改善の励みになります。ありがとうございます。</p> <p>この科目はこれからの社会において必携スキルとなっていくはずの数理・データサイエンス・AIプログラムの対象科目となっています。ぜひ多くの学生に受講して欲しいです。また、ソフトウェア演習や心理学についても実社会で非常に役立つ科目です。こちらも皆さんふるって受講してください。</p>	<p>前年度前期に 50%程度だった授業評価アンケートの回答率が今期は 40%弱と低迷してしまっ。授業時間内に今まで以上に授業評価アンケートの意味・価値を伝え、回答のための時間を確保するよう図っていきたい。</p>

科目 N	<p>オンライン授業評価に協力してくれた学生に感謝します。前年度の結果を踏まえ改善に取り組んだり、新しいことにチャレンジしたりしてみました。また、本年度前期はオンラインでの授業となり例年とはまったく異なる方法での授業に四苦八苦しりましたが、よりよい授業になるよう心掛けましたが、良くなった所もあれば悪くなった所もあるかと思います。評価結果を基に次年度以降の更なる改善に取り組みたいと考えています。この科目はこれから必須となる数理・データサイエンス・AI教育プログラムの対象科目となっています。</p>	<p>オンライン授業だったためPCの活用方法を色々と考えて実行してみました。授業中やあとで見直したりした際に気になる点に気づくことが多く、そういった所を少しでも良くなるよう改善していきたい。また、オンラインで資料はいつでも見ることができるようにしたことと、授業をそのまま録画し、授業後に見られるようにしましたが、見やすさや調べやすさを考慮して動画の編集や授業資料等を閲覧するためのシステムを構築していきたい。</p>
------	--	--

(上記で「科目 A」等と記されている具体的な科目名は、在学生等が学内から参照できるようになっています)